



2005年度 教育行財政学

2005.12.6

学校の管理と経営 改革と理論(2)

担当: 勝野正章

講義の内容

- 3. 組織としての学校
 - 3-1. 学校組織の特徴
 - 3-2. 機動的な学校運営
 - 3-3. 組織の見方
 - 3-4. 同僚性モデル
 - 3-5. 学校組織の構造と文化
- 4. 開かれた学校
 - 4-1. 「開かれた学校」の諸相
 - 4-2. 学校のガバナンスモデル
 - 4-3. 地域運営学校
 - 4-4. 「開かれた学校」の問題点

3-1. 学校組織の特徴

学校組織については、校長、教頭以外は横に並んでいる、いわゆる「なべぶた」組織であると言われている。これは、一人一人が責任を持って業務に当たる上では一定の役割を果たすかもしれないが、組織的な学校運営をかえって難しくしている面もあるのではないか。このような組織では、・・・その場の対応に終始したり、責任の所在を不明確にするおそれもあると考えられる。

Discussion なぜ、学校は「鍋蓋」組織なのか？

3-2. 機動的な学校運営

- 職員会議の補助機関化
- 企画調整会議
- 教頭の複数配置
- 副校長
- 主任制の活用
- 主幹制

3-3. 組織の見方

客観主義—実態としての組織

機能主義(合理主義)・・・目標、統合、合意

官僚制モデル・・・命令系統、分業、規則

ルースカップリングモデル(K.Weick)

・・・システム、サブシステム

葛藤論・・・利益、権力、葛藤

主観主義—個人の認識としての組織

3-4. 同僚性 (collegiality) モデル

- 価値体系の共有 (専門職で構成される組織)
- 民主的代表的代表制
- 合意による決定

Cf. 専門職官僚制 (professional bureaucracy) H. Mintzberg

デメリット・・・意思決定に要する時間、効率を求め外部からの要求との葛藤、保守的傾向

3-5. 学校組織の構造と文化

- 構造

- 責任と権限、命令系統、職位・職名・職務規定

- 垂直的構造－水平的構造

- 文化

- 信念、規範、価値

- 明示的文化－黙示的文化

- 全体文化－下位文化

Discussion 学校組織の構造と文化は相互にどう関係するか。

4-1. 開かれた学校の諸相

- 学校の施設・設備の住民への開放
- 公開講座など教職員のもつ知識・技能の住民への開放
- 人材バンクなどによる保護者・住民の学校教育活動への登用
- 学校情報の公開（知る権利の保障）
- 個人教育情報の本人開示（プライバシー権の保障）

4-1. 開かれた学校の諸相(つづき)

- 学校・教師のアカウントビリティ(説明責任)の実現
- 学校評議員制度(校長の推薦する住民による学校運営への参画)
- 子ども、保護者、住民の学校参加の実現
(浦野東洋一『開かれた学校づくり』(同時代社、2003年)より)

Discussion なぜ開かれた学校が求められているのか。

4-2. 学校のガバナンスモデル

ガバナンス 学校と他の学校及びステークホルダー(利害関係者)との関係をどう調整するか

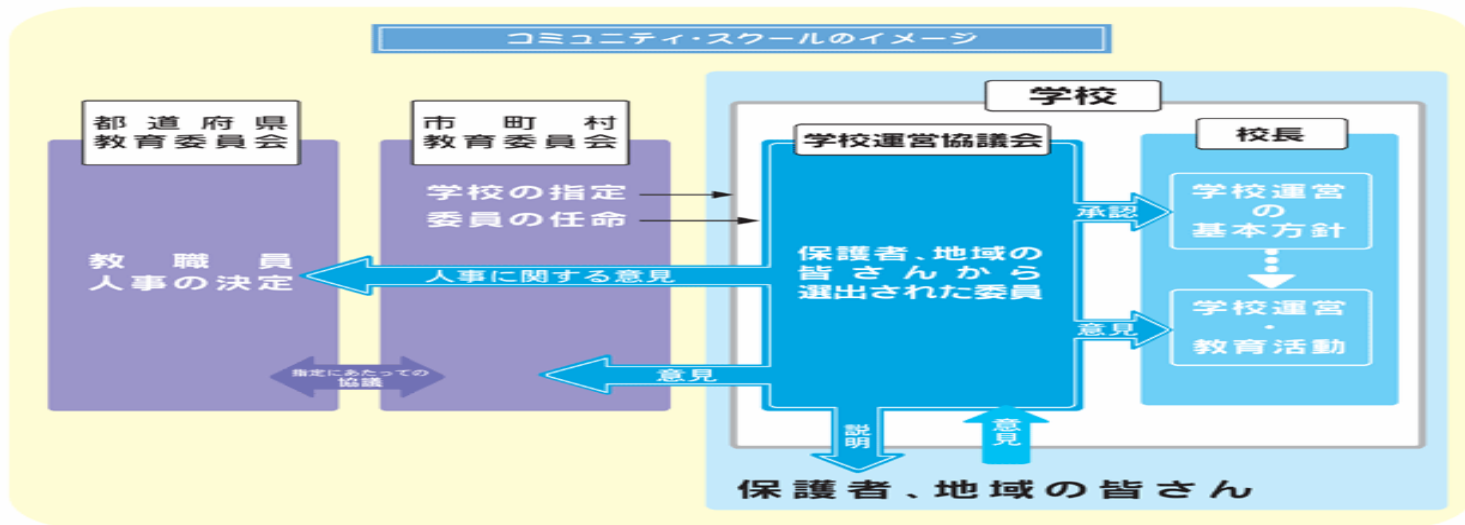
- 競争市場モデル
- 機関エンパワメントモデル
- 地域エンパワメントモデル
- クオリティ・コントロール(品質管理)モデル

4-3. 地域運営学校 (コミュニティ・スクール)

学校運営協議会は、こんな役割を果たします！

学校運営協議会は、主に次のようなことを行います。

- 校長の作成する学校運営の基本方針の承認
- 教職員の任用に関して、教育委員会に意見(教育委員会は、その意見を尊重して教職員を任用)



- 学校運営協議会を通じて、保護者や地域の皆さんと、校長や教職員とが一体となって、責任を共有しながら、地域に開かれ、信頼される学校づくりを進めることがこの制度のねらいです。
- 地域の創意工夫を活かした特色ある学校づくりが進むことで、地域全体の活性化にもつながります。

4-4. 「開かれた学校」の問題点

- 代表性の確保
- 権力の不均等性
- 強者・多数者の専制
- 「愚かな決定」
- 参加コスト